

Science Communication Report

2014年2月3日

京都大学 物質-細胞統合システム拠点
科学コミュニケーショングループ (SCG)

若手研究者向け対話カトレーニングプログラムの実施

京都大学物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS=アイセムス) 科学コミュニケーショングループでは、iCeMS カフェに参加する若手研究者に、独自に開発した「対話カトレーニングプログラム」を提供しています。

2013年12月20日には、第16回 iCeMS カフェ「生命サイクルを紡ぐ仕掛けを探る」の開催にあたり、斎藤通紀グループの若手研究者5名のみなさんを含む、7名のみなさんに対話カトレーニングプログラムを受講してもらいました。



iCeMS 科学コミュニケーショングループが提供する「対話力トレーニングプログラム」は、以下5つのコンテンツで構成されています。今回、参加した京都大学の若手研究者のうち、斎藤グループのみなさんには全行程を受講してもらいました（なお、1~3は12月20日（金）10:00~12:00に実施されました。4・5は、1月11日（土）に実施されました）。

1. コミュニケーションゲーム

会話をする際の、参加者間の知識ギャップや関心の違いによって生じるコミュニケーションの特徴や問題について、簡単なミニゲームを通して考えてもらいました。



2. 「対話力トレーニング」の目的は？

いま、なぜ、研究者に市民との双方向コミュニケーションが求められているのか？この背景について説明することで、サイエンスカフェ等の双方向コミュニケーション活動の重要性・目的をトレーニングプログラムの参加者間で共有しました。そして、「市民との対話の場」に出る際に、何に気をつけるべきか、何を伝えたいか、何を聞きたいか、といったことについてディスカッションをしました。



3. 会話分析実践

過去に開催された iCeMS カフェのビデオデータを視聴し、そこでの研究者とカフェ参加者のやり取りについて、「そこで何がなされているのか」「研究に関する社会的倫理的な問いに対して、自分であればどのように対応するか」といった点についてディスカッションをしました。これを通して、「対話」に対する感受性を高め、ひいては、「よりよい対話のやり方はなにか」ということを今後のキャリアにおいて実践的に反省するための視点を獲得することが狙いです。



4. 実践（サイエンスカフェを対話の場として）

上記の1～3を終えたうえで、斎藤グループのみなさんに、実際に iCeMS カフェ（2014年1月11日実施）に参加してもらいました。

第16回 iCeMS カフェ「生命サイクルを紡ぐ仕掛けを探る」の様子はこちら
(<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2014/01/11-cafe16report.html>) をご覧ください。



5. 実践の振り返り

iCeMS カフェ終了直後に、斎藤グループのみなさんと、振り返り用のシートを使いながら iCeMS カフェ中の対話を振り返り、今後の科学コミュニケーション活動に向けた「よりよい対話」についてディスカッションをしました。

研究者自身が行う科学コミュニケーション活動は、萌芽的科学技术に関する理解・信頼感の醸成と、市民のニーズや社会倫理・道徳観等を踏まえた研究の将来ビジョン・プレゼンテーションスキルの獲得に繋がることが期待されます。

